

アフリカ連合委員会・国際エネルギー機関主催閣僚フォーラム
～新型コロナウイルス感染拡大を受けた
アフリカのエネルギーの将来の確保～
(鷲尾副大臣発言)

アブ・ゼイド・アフリカ連合委員会インフラ・エネルギー委員、
ビロル I E A 事務局長、マンタッシュェ南アフリカ・エネルギー・鉱物
資源大臣、各国・国際機関代表、御列席の皆様、

日本の外務副大臣の鷲尾英一郎です。日本政府を代表して本日発言の
機会を得ますことを、大変嬉しく思います。I E A の日頃からの取組と
ビロル事務局長のリーダーシップに敬意を表し、また、本フォーラムの
実現に向けた、関係者のご尽力に感謝申し上げます。

私が政治家として、そして外務副大臣として、如何にして日本の外交
を展開していくかを考えたとき、重要視するものは「現場主義」です。

「現場主義」の観点からアフリカのエネルギー情勢を考えますと、未
だに多くの人々が近代的なエネルギーへのアクセスがないという現実
に直面しています。新型コロナウイルスの感染拡大により、ワクチンや
医薬品等の保管、医療施設の運営のためには、エネルギーの安定供給、
そして人々がエネルギーへアクセスできることが不可欠であると改め
て認識されました。しかしながら、I E A の「世界エネルギー展望」で
も指摘されているように、本年、サブ・サハラにおける電力へのアクセ
スを有していない人の数は増加すると見込まれています。

エネルギー・アクセスを改善するための道筋は一つではなく、各国・
地域のエネルギー事情により効果的な取組は異なってきます。あらゆる
エネルギー源や技術を組み合わせる視点が、エネルギーのユニバーサ
ル・アクセスの早期実現のためには重要です。

次にアフリカへの投資を継続することの重要性についても述べさせていただきます。

新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の停滞により、アフリカのエネルギー関連のプロジェクトに停滞や遅延が発生していることは憂慮すべき状況です。I E Aの報告では、エネルギー生産国は上流投資の呼び込みに苦心しており、サブ・サハラにおける原油生産量が2019年の水準まで回復するのは2040年になるとの可能性も指摘されています。

必要とされている投資が行われないことは、アフリカの将来を不透明にするばかりでなく、エネルギー・アクセスの実現を含む、エネルギー安全保障の未来にとって重要な課題です。なぜなら、アフリカへの投資は、アフリカの将来、そして私たちのエネルギーの将来を形作ることも意味するからです。

このような問題意識から、我が国は、例えば、ケニアでは地熱発電等の日本の技術を活かした協力を推進するなど、アフリカにおけるエネルギーへのユニバーサル・アクセスの早期実現に向けた取組を着実に実施しています。

また、昨年、アフリカの7か国との間で立ち上げた「二国間ビジネス環境改善委員会」も通じ、各国のビジネス・投資環境の改善のため、官民で連携しながら継続的に取り組んでいく所存です。

我が国としては、我が国が主導するアフリカ開発会議（T I C A D）等を通じ、アフリカの皆様のパートナーとして寄り添い、アフリカの声を聞きつつ、今後もアフリカの繁栄のために取り組んで参ります。

ご清聴ありがとうございました。

（了）